

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200117		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム さわらび		
所在地	秋田県山本郡三種町浜田字上浜田1番地		
自己評価作成日	平成31年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内にクリニック、通所リハビリ、居宅介護支援事業所、ショートステイ、特定施設と法人一体となり、地域密着型の医療、福祉、介護サービスの提供に努めている。利用者及び職員の交流、緊急時での連携など、多種多機能を活かし展開している。また、近隣住民との理解や協力を得られ、緊急災害時の連携、協力体制も確保されている。地域全体で利用者の生活支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の母体が病院の為、医療との連携が充実している施設である。医療との関係は常に行き来ができ、受診もすぐでき、緊急時や検査が必要な際もすぐに対応できる環境となっている。管理者は、一日一日元気になって、楽しく過ごして欲しいと考えている。前向きに楽しく仕事をしていきたいとの考えから、職員間での話し合いの時間を多くとっており、利用者の事だけでは無く、勤務時間の見直し等が行われている。ホーム独自の地域協力隊もいるが、法人としてどこの部署で何があっても、一緒に協力しあう体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人の理念と地域密着型の事業所としてグループホーム独自の理念を掲げている。	職員間で話し合いを行い、理念の見直しを行った結果、今まで通り「住み慣れた環境で 思いやりのある 仲間作り より健康に」という理念を継続する事となった。書道師範の職員が大きく書し、ホールに掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同敷地内にある通所の行事に都度参加され保育園児の訪問や法人全体のお祭り行事等、地域の方々との交流を大切にしている。	保育園や幼稚園の児童が敬老会の時に来所し、肩もみをしてくれたり、年に1回中学生のボランティアの受け入れを行っている。お正月には獅子舞が訪れたり、法人全体のお祭りである「ドラゴン祭り」には150人近くの来所者があったりと、地域との付き合いが多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	毎月、近隣住民の方に「さわらび便り」を渡しながら、認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用サービス状況や外部評価を報告し、利用者や家族、地域との関わりや連携、協力体制について検討し、実際に具体的な取り組みにもつなげている。	運営推進会議では、地域行事についての情報提供を受け、参加を促してもらったり、施設で行っている事を家族にもっと発信してみようかとの助言をもらい、毎月家族に報告の便りを出すようにしたりと、活発な意見が出され、サービス向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や利用者の入退所時の報告など日頃から地域包括支援センター、行政担当者と密に連絡、相談、報告といった協力関係を図っている。	事業所の部屋に空きが出た際は連絡し、市と連携を取っている。運営推進会議では、制度についても説明やアドバイスを頂く等、協力関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき、拘束はしないよう取り組んでいる。玄関にはセンサーを取り付け鍵をかけないようにしている。	現在もこれまでも事例は無い。法人内で、きちんと研修も行われており、日々のケアの見直しを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルに基づき、見過ごさないよう細心の注意を払い、随時職員間での報告、連絡、相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強の機会を持ち、今後活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の説明と同意を利用者家族へ適切に対応し、理解と説明を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会の際に、意見や要望の把握に努め反映するようにしている。玄関先に目安箱を設置しているが利用はされていない。	家族からは「自宅に戻るの難しいので、ここで過ごしてもらいたい。見てもらってありがたい。」との感謝の意見が多く、意見や要望はあまり聞かれないが、何かあったときは直ぐに連絡を取るようにしている。	利用者や施設の状況を、きちんと報告している。今後は家族の意見や要望を少しでも聞き出し、利用者がより元気になって楽しく過ごせる事に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の運営会議や年2回、職員との個人面談希望アンケートを行っており、希望される方は職員の意見や提案を聞き良いことは反映するようにしている。	個人面談希望アンケートでは、管理者、施設長等、誰と面談したいかも選べるようになっている。又、個々の話もきちんと聞くようにしており、何かあった時は会議を開催するというスタイルに変化した。職員の意見を取り入れ、業務内容の見直しも行い、マンネリ化した仕事にならないよう、業務が円滑に進むよう配慮した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価に基づいて、面会を行い各職員の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年次研修計画に沿い、職員のスキルアップに努めている。また、外部からの研修依頼については職員一人一人の段階的な研修を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修に今後参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人の事前調査を行い、精神的な悩み、不安を取り入れ、アセスメントを踏まえながら職員が対応している、また、随時利用前の施設見学を実施して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や意見を取り入れ、密にしながら信頼関係を深めるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの暮らしや生活スタイル、昔なじみの遊びや畑作業等の会話を通じて共に支えあう生活を送っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室でゆっくりと家族団らんで職員はコミュニケーションの時間を大切に、共に利用者を支えていく信頼関係を築くようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内にあるクリニック、居宅介護支援、短期入所、通所リハビリから利用した方が多く、顔馴染みのため、お互いに情報を共有しながらスムーズな利用に繋げている。	昔の話や、働いていた頃の思い出話をしたりと馴染みの人や場についての記憶をよみがえらせるよう支援している。ショートステイや通所で行われる行事に参加したり、受診で病院に行くと、顔なじみに会う事も多く、再会を喜んでいる。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶碗拭きや洗濯たたみ等、孤立せずに利用者同士で行って頂いている。それぞれが生活していく上で他者と関わりをもちながら支えあっている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時、お見舞いや家族と連絡を密に対応している。また、契約が終了しても必要に応じて連絡が取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を築くためにも常に利用者目線で会話をしている。そこから本人の希望や思いを取り入れるように努めている。	普段自分から話さない方も、気持ちが沈んでいるようだったり、顔色が優れなかったりと変化がある時は、すぐに察知し声掛けを行うようにしている。少しでも楽しんでもらえるよう、家族的に何でも話してもらえるような環境を作り支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や環境を踏まえ、職員間で情報を共有している。特に家族や親戚、友人、知人の方が面会に来られた時、情報提供して頂いてサービスに繋げている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活スタイル、リズムがあり、心身状態が良好であるように、何か少しでも行動に変化があった時は随時、報告、記録をするようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の重度化に伴い具体的な目標設定が難しいため、家族とも話し合いながら身体機能の維持や生活意欲の向上を重点とした計画に努めている。	担当制は採用せず、全員で利用者を支援している。家族や本人の意向の他、職員からの情報や意見を元に、管理者が計画を作成し、職員全員で共有している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで少しでも変化や気づきがあった場合は記録して頂き、計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動の参加や地域の社会資源を活用し、友人や知人との交流を踏まえた暮らしを楽しめるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関の医師が主治医であり、定期的な訪問診療により健康状態を把握している。薬局も向かい側にあり、必要時や定期薬を届けて頂ける。また、利用者に応じて歯科往診や病院受診、総合病院との連携もできている。	元々法人が運営する医療機関を利用している利用者が多いが、今までのかかりつけ医を継続する事も可能で、その際の通院は職員が対応している。主治医は往診の他、健康チェックや状況報告等を行っており、看取りへのスムーズな移行に役立てられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の状況や状況や気になることを看護師に報告、場合によっては受診できる体制となっている。また、定期的な検査も実施されている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関があるため、利用者が入院した際は都度連絡をし、日頃から関係作りを密にしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えるにあたり、看取り計画書を作成し家族、本人、医師との話し合いにより方針を決めている。	事業所だけではなく、法人全体が「一日一日元気に過ごしたい。ギリギリまでみんなと過ごすのが一番」との考えを共有し、多くの看取りを行っている事業所である。夜勤者の他に当直の職員も配置しており、いざという時にもきちんと対応できる体制となっている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡体制は整っており、応急手当の指導は看護師より受けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の避難訓練に参加、災害時の役割や地域住民との協力体制も明確にしている。また、非常食の準備や発電機、スプリンクラーの設置などの非常時に備えている。	法人全体としての避難訓練を実施しており、法人が指定した避難場所よりも、その向かいにある薬局の方が、スムーズに誘導ができ安全性でもあることから、管理者が法人のトップと防火管理者に説明し、向かいの薬局に災害時の避難場所としての使用許可を頂くよう依頼し、協力してもらえたこととなった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴者の順番や声掛け等、利用者の人格を尊重し、プライバシーにも配慮している。	女性の入浴中や、トイレ使用中は男性はドアを開けないよう声掛けを行っている。夜間居室の戸を閉めているが、寝付くまでに歩いている利用者には、職員がついて歩きながら、他の人の居室の戸を開けないよう説明している。又、トイレを使用中は、必ずカーテンを閉め支援している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やテレビ、娯楽など、いつも自己決定ができるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いのまま、自由に過ごして頂き、食器拭きなど本人のペースを大切にし、生活意欲を高めるためにも、職員側の優先はしないようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんに来て頂き、好みに合わせた髪型にして頂いてる。時々、小物が欲しいと訴えがある時は、同行の声かけをしておりますが、殆んどの方が職員にまかせております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や要望を考慮し、メニューを決め簡単な手作業と一緒にいき、行事や誕生会には特別メニュー提供し、食の楽しみに配慮している。	職員の勤務体制の見直しを行い、調理員を新たに採用している。できるだけ利用者の好きなものを把握し、冷蔵庫にあるもので、その日に献立を決めている。調査日は菜の花の天ぷらが提供されており、季節感のある食事となっていた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取はチェック表で把握し、体重や体調を考慮しながら支援し、糖尿病など制限のある方は医師の助言を得ながら支援、栄養のバランスは当法人の栄養士のもと、偏らないよう配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の2回歯磨きを実施し、夕食後は義歯を洗浄に浸している。歯磨きのできない方は、職員が口腔ケアを行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、できるだけトイレでの思いで、夜間オムツの方も日中はリハビリパンツで対応している。日中は、排泄チェック表を確認し、尿意の少ない方には声かけ対応している。	オムツは最終的な手段としている。ポータブルトイレを使うことに慣れてしまい、行動範囲が狭くなるおそれから、トイレ誘導を行っている。肺炎で寝たきりになっても、本人の希望で、毎回トイレで排泄できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時はヤクルト、朝食にはヨーグルトを提供している。排泄状況や水分量をチェックし、医師、看護師と相談で時には下剤を服用して対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人、週2回以上は入浴しているが、本人の体調をみながら無理のないよう実施している。	以前は(月)(水)(金)の入浴支援だったが、見直しを行い、日曜日以外は入浴ができる体制とした。利用者第一だが、職員の体も大事であるとの管理者の意向で、職員の意見を取り入れ、基本的には「週2回以上の入浴」だが、皮膚状況等により回数を増やしたりと臨機応変に対応できるようにし、必要に応じて見直しができる体制となっている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤等の服用はなるべくせずに個々の状況に応じてホットミルク等、飲み物を提供したりして休んで頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が利用者の服薬状況を理解し、状態に合わせて医師、看護師と連携しながら支援をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時々、軽い体操やお口の体操、リズム体操を実施している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態に合わせてドライブをして外食したり、屋外で食事を楽しんだりしている。また、家族の方がドライブに連れて行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない方が多いため、ホーム側で管理をしている。外出時に買い物をするのが楽しみとなっている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりをしている方はおりませんが、電話の訴えがある時はその都度職員が対応し、支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関先に小物を置いたり、ホールには神棚を置いたり自宅での雰囲気を出し、居心地よく過ごして頂いている。	職員の意見を取り入れ、物を廊下に置かないようにし、多すぎる飾りを減らし、季節毎の装飾に気を配っている。利用者の動線を考え、ソファやテーブルを購入し準備した。毎朝職員が掃除を行い、とても綺麗な事業所である。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には木の椅子を置き、夏場にはウッドデッキにテーブルやいすを置いて、自由に外気に触れ景色を眺めながら、気の合う利用者同士で会話を楽しんでいる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は全て本人や家族に任せており、職員は必要以上には援助していない。居室のドアの壁には、遠くからでも見えるように各部屋に職員の手作りの花のプレートをかけており、居室を間違うこともなく過ごされている。	毎日朝に職員が掃除を行っているが、居室内の配置等は全て本人、家族に任せており、お孫さん手作りの写真が飾られたりと個々に特徴のあるお部屋となっていた。居室のドアの壁には、遠くからでも見えるように職員手作りの花のプレートがかかっており、全部のプレートの色が違い、花の名前や色で自分の部屋がわかるように配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がわかりやすいよう、入り口に大きな字で書いてある。また、日付もわかりやすいようホールに手作りカレンダーを置いてある。		